

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570500425		
法人名	社会福祉法人 白鳩学園		
事業所名	白鳩老人グループホーム		
所在地	山口県周南市大字大島637番地		
自己評価作成日	平成26年10月30日	評価結果市町受理日	平成27年6月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の社会福祉法人白鳩学園は知的障害者の施設でもあり、「障害者と高齢者のふれあいの館」として、ごく自然な形で互いに支えあっています。特に運営推進会議から発信された第5回白鳩祭も「障害者と高齢者」から地域を巻き込んだお祭へと盛大に行われました。また、隣接の小規模多機能型居宅介護いこの郷白鳩からの新規利用者を受け入れ、日常のかかわりやなじみの関係からスムーズな利用スタートとなりました。「認知症になっても地域の中で安心して暮らしたい。」「自分らしさを保ちながらのんびりと喜びのある暮らしをしたい。」「そんな誰もが願うごく普通で当たり前の生活を送っていただきたいとグループホームを展開しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念に基づいて、今年度の方針「一人ひとりの今を大切に」を決めておられ、職員全員で共有されて、利用者が日々生きがいを持って過ごしていけるよう支援されています。今年度の自己評価は、職員全員でガイド集を基に各項目の考え方の指針・着眼点について学習されて取り組んでおられ、業務の振り返りや日常のケアにおける職員それぞれの改善課題の発見につなげておられます。消防署や自治体、地域住民の協力を得て、日中・夜間を想定した通報、避難、誘導訓練に併せて、土砂災害、移送訓練を、全職員が体験出来るよう三日間連続して行われています。近隣住民や運営推進会議のメンバーも参加されており、地域との協力体制が築かれています。食事は三食とも事業所で調理され、利用者は、買い物、食事の準備、調理、配膳、下膳、後片付けなどを職員と一緒にしておられ、季節に応じた行事食や誕生日食(お祝い膳)、おやつづくり、年3回の外出など、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念『地域とのふれあいの中で助け合い、暮らしあう』に基づき26年度の方針を「一人ひとりの今を大切にすること」とし今年度もスタートしました。意識づけとしては事業所内の掲示や名札の裏に掲げています。また、各利用者により、サービスは異なりますが、状況に応じて話し合いサービス提供を行っています。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、今年度は「一人ひとりの今を大切にすること」という理念に基いた方針を掲げ、事業所内に掲示し、職員の名札の裏に記載している。職員はケアカンファレンス時や業務の中で理念に立ち返るよう共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	生き生きサロンなどの交流はなくなりましたが、新たに地域交流として周辺清掃を年間計画に取り入れ交流を図っています。また、法人理事長は、コミュニティ・地区社協などの役員を受け地域の一員として活動しています。	年2回、自主的に利用者と職員で事業所周辺の清掃作業を実施している。利用者は、地域の文化祭や花まつりに出かけたり、法人主催の白鳩祭で地域住民と交流している。2ヶ月毎に事業所だよりを地域に配布している。管理者は、認知症サポーター養成講座や小学校の講和で認知症理解のための講師をしている。近隣から、季節の花や野菜の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの研修を終え、オレンジリングへ関心が高まってきました。利用者さんをはじめ地域住民の方からも声をかけられ、主旨と目的を説明する中で少しずつですが、認知症への理解が深まってきたと思います。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	“みんなの自己評価”としてスタッフ各々が事業所を評価します。今回は、{自己評価項目・外部評価項目の考え方の指針と着眼点}の資料を提示し、事業に求められているものを再確認する事が出来ました。	職員全員でガイド集を基に、各項目の考え方の指針・着眼点について学習し、評価の意義について理解を深めた上で、自己評価に取り組んでいる。職員一人ひとりが取り組むことで、グループホームに求められていることや日々のケアの中での利用者との関係性を再確認し、業務の振り返りとしている。応急手当や初期対応の訓練の実施について、目標達成計画を立てて、改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、利用者の状況、サービスの状況の情報提供の方法を変えてみました。より詳しくなったことで、運営推進会議において様々な意見が出るようになり、事業所内外の様子を理解いただく事ができるようになりました。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況やサービスの状況の報告、ヒヤリハット・事故報告、苦情や相談内容の報告、防災訓練の状況報告、外部評価への取組状況等について説明し、意見交換している。利用者の現状をより詳しく報告することで意見が活発になり、事業所便りの地域への配布や避難誘導のマニュアル作成など、意見を活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	“保険外の利用料について”、“初期加算の起算して30日の捉え方について”など連携を取りながら協力関係を築くことができました。	市担当課とは、運営推進会議時に事業所の現状を伝え、事業内容の相談等で直接出向いて助言を得たり、電話で情報交換するなど協力関係を築いている。地域包括支援センターとは、運営推進会議時の他、電話等で情報交換して、日頃から連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉や薬における拘束、ベットのサイドレールの目的、鍵をかけない暮らしの大切さなど全職員が共通理解し、居室内外での生活空間を快適な空間として取り組んでいます。	身体拘束排除マニュアルを常備し、年1回の内部研修で学習して、職員全員は理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックや不適切なケアがあれば、管理者が指導し、否定をしない言葉かけに努めている。日中玄関の施錠はしておらず、外出したい利用者には、一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・どのような事が虐待にあたるとの研修などで考え、意見を出し合い、自分たちの言動を振り返り早期発見、防止に努めています。 ・排泄や入浴時の体の変化に注意する様心がけています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会や取り上げ場面も少ないのですが26年度は内部研修の中で取り組みたいもっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	保険内外の利用料の改定等はその都度十分な説明を行い理解していただいています。また、新規利用希望の方には十分な説明を行い、ご理解・納得していただいた上で利用へとつなげています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談については話しやすい環境等を作りその都度対応策を考えています。また運営推進会議で外部者に内容を伝える機会を作り、意見や助言を運営に反映しています。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、外部機関を明示して、契約時に家族に説明している。運営推進会議時、年3回の家族会(夏祭り・みかん狩り・敬老会)、面会時、電話等で家族の意見や要望を聞いている。家族からの相談や家族への伝言内容は、職員全員が共有できるよう工夫している。家族から直接相談できるように、電話の取り次ぎについての改善を図っている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が、職員から出てきた意見や提案を事務長や理事長に伝え、話す機会を設けています。	月1回の職員会議や法人の合同職員会議で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は、日常業務の中でも聞いている。非常用のスロープ設置や物品の購入、マニュアルの変更などの意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、ゆとりある職員配置を望んでいますが、現実には難しい状況です。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は主任を中心に月に1回程度実施しています。外部もグループ認知症新任研修程度です。現場での新任職員育成期間の確保やスキルの向上に力を注ぎたいと思っています。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じ勤務の一環として受講の機会を提供しているが、参加が十分とは言えない。内部研修は年間計画に基づいて実施しているが、十分とは言えない。	・外部研修への参加の工夫 ・研修の充実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加する事で、事業の取り組みを共有する事が出来ています。ただ、職員が同業者と交流する機会はなく、もっと意見交流の場があるとサービスケアの向上につながると思います。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	10月に新規利用者を受け入れました。隣接の小規模多機能型居宅介護からの利用者だったため職員との馴染みの関係や信頼関係はできていると思います。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	“今家族が求めているものは何か”、困っていることや希望していることに傾聴し、しっかり聞き取ることでサービスに取り入れています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	隣接の小規模多機能型居宅介護からの新規利用者に対し、事前に伺った本人や家族の思いを、隣接の介護支援専門員との連携により実現化しています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士で声掛け合ったり、掃除・洗濯・調理・買い物など日常生活を職員と共に支え合いながら暮らしておられます。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いに寄り添いながらどのように支援するかを家族と一緒に考えるような関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一緒に買い物に出かけたり、地域の文化祭に参加する事でなかなか会えない地元の方々と出会い、声をかけあえる場が保たれています。	家族や親戚の人、知人、近所の人々の来訪がある他、年賀状や電話の取り次ぎなどの支援をしている。家族の協力を得ての墓参りや外食、買い物、美容院の利用、一時帰宅など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しいソファの搬入によりみんなで楽しく過ごせる時間や気の合うもの同士が過ごせる場面づくりに配慮しました。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られる際に、移り先でのダメージを最小限にするための情報提供や家族への配慮に努めました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのように暮らしたいのか、何が最良なのかを生活全体で捉えられるように努力しています。ご本人とご家族の思いに違いがある場合は、双方の思いに傾聴し、その人らしく生活できるように配慮しています。	入居時のアセスメントで、家族から基本情報や生活歴を聞いて、アセスメント表やケアチェック表に記録している他、日々の関わりの中で利用者の日行動や会話をサービス提供管理表に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合には、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にこれまでの暮らしの情報の大切さを理解していただき、プライバシーに配慮しながら情報を得るよいにしています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス導入時に家族と本人に生活歴や「一日どうやって過ごしているのか。」できることとできないことの中からサービスの希望を伺っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時とその後の状態に変化が生じた場合のケア等については、申し送りノートで徹底を図っています。日々状態が変化するので現状に即したプランの作成に努めています。	計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に、カンファレンスを毎月1回開催し、利用者や家族の要望、主治医や法人の看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し見直している他、状況の変化に応じてその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を活用し、ご本人の状態を把握しています。また、ケアカンなどで利用者の変化の対応について考え、計画の見直しに努めています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全てのニーズに応える事は難しいが、その都度、本人、ご家族と話し合い、希望に添える様努めています。また、入居して間もない方はできる限り今までの生活リズムに近い状況を提供しています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が地域の中で暮らせるように、地域住民や民生委員との関わり大切にしています。また、駐在所にも必要な情報は提供しています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されたから医療機関を変更するのではなく、いままでのかかりつけ医を大切にしています。定期通院については事業所対応とし医療機関との連携に努めています。	協力医療機関の他、利用者や家族が希望する医療機関がかかりつけ医となっている。協力医療機関の月1回の受診がある他、その他の医療機関は家族の協力を得て受診の支援をしている。歯科は必要時に往診がある。法人の看護師や併設施設の看護師の協力を得て、利用者の健康状態を観察し、診療情報は毎月家族に提供するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通常服用している薬の内容を介護職員が常時把握できるようにしています。また、バイタル値に不安があったり病変があれば併設、隣接の看護師に相談・処置が気軽にできる状況です。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院の流れにおいて、受け入れ可能な段階でなるべく早く退院できるように、病院関係者と情報を共有し状態把握に努めました。また、安心して利用できるように家族らと共に働きかけています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「本人や家族の意向」、「本人にとってどうあったら良いのか」など、事業所が対応できる最大のケアについて方針を定め、協働しています。特に重度化し痰の吸引や胃ろうになられた場合は対応ができないなどは伝えています。	契約時に、事業所でする対応について家族に説明をしている。重度化した場合には、家族やかかりつけ医と話し合い、入所施設や医療機関への移設を含めて、方針を職員全員で共有して、支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	夜間時の緊急事態の対応や災害時の具体的な対応などマニュアルの見直しや災害を想定した訓練の実施を計画しています。毎年、不安の声が上がるのでいざという時慌てず、判断・行動できるように全員が身につける必要があります。	発生の都度、ニアミス・事故報告書に記録し、当日の職員で話し合っている。他の職員には翌日の申し送り時に報告した後、報告書を回覧し、月1回の職員会議で再度確認し、再発防止に取り組んでいる。内部研修で緊急時の対応について学習しているが、職員全員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象として応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	7月29日に鼓南支所の理解と協力を得て土砂災害発生時を想定した避難・誘導・通報訓練を実施しました。	年2回(内1回は消防署の協力を得て)、同敷地内の法人施設全体での、昼夜の火災を想定した避難や消火、通報訓練、避難経路の確認の他、土砂災害や移送訓練を利用者も参加して実施している。訓練には運営推進会議メンバーや地域住民の参加もあり、災害時に備えた協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	機会(ケアカン・職員会議など)あるごとに利用者のその人らしい尊厳ある生活に触れ、人格を尊重した声かけに努めています。	内部研修(倫理及び法令順守について)で学び、職員は理解しており、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。定期的なケアカンファレンスの中でも利用者に対するプライバシーについて話し合っており、不適切な対応等がないかを職員同士で確認している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	隣接の小規模が実施する週1回の健康体操への参加有無や日々の買い物同行など生活の中で選択・決定できる場面づくりに努めています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね一日の流れは決まっていますが、無理強いや抑制はありません。その日その時の本人の気持ちを大切にしながらの声かけに努めています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2から3ヶ月ごとに馴染みの美容師さんに来ていただいています。髪形の希望を聞きながら対応しています。身だしなみに興味のない方に対しては、関心が保てるように支援しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じる献立や嗜好に配慮した献立で食事が楽しみなものになるように支援しています。また、外食やお弁当を楽しむ機会をつくることもできました。	利用者の意見を聞いて献立を立て、近所からの差し入れの野菜や自家菜園で採れた旬の野菜を使って、三食とも事業所で調理している。利用者は、買い物や食事の下ごしらえ、調理、盛りつけ、お茶汲み、台拭き、配膳、下膳、食器洗いなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じものを一緒に食べている。季節に応じた行事食(おせち、節句、ソーマン流し、土用の鰻、クリスマス等)や誕生日食(ケーキ・お祝い膳)、おやつづくり(ぜんざい、ゼリー、柏餅、チョコレートパフェ、フルーツポンチ等)、年3回の外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れた食事の提供を実施し、摂取量については大まかですが把握できています。また、アレルギーや刻み食など個々の対応に努めています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	長い生活習慣に配慮しながら、口腔ケアの大切さに触れ、個々に応じた支援を毎食後実施しています。しています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意の訴えの希薄な利用者にも時間を見図りながら声をかけ、個々の排泄間隔を把握することにより、トイレでの排泄を心がけています。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の利用者に対し、医師と連携を図り情報を共有しています。自然排便への工夫や運動への働きかけ等個々に応じた支援に努めています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日行っていますが、利用は2日に1回がベースになっています。もちろん希望や必要に応じてのご利用は可能です。個々の入浴の楽しみ方に可能な限り応じています。	入浴は毎日、15時から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて支援している。利用者の状態により、併設施設の機械浴やシャワー浴、清拭、足浴などで対応し、複数の職員で見守ることも行っている。入浴したくない利用者には、無理強いをせず、時間をずらしたり、声かけの工夫をして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく自宅と同じように過ごせる様にベットや座敷等ゆっくりできる場所を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表で内服状況や副作用など各々の情報を、全職員が理解できるようにしています。服薬支援には細心の注意を図っています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	雑巾がけが難しくなれば、モップに切り替えたり日々の買い物でおやつや食材を選んだり洗濯物をたたんだりと場面場面でできること・やりたいことを見つけてハリのある生活を支援しています。	ラジオ体操、野菜づくり、カラオケ、トランプ、カルタ、風船バレー、お手玉、パズル、DVDやテレビ視聴、縫い物、繕い物、ボタン付け、ゴム通し、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の準備や後片付けなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者一人ひとりが張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の戸外支援は、近隣の散歩・買い物程度ですが、年間通じては、花見、笠戸、大型スーパー、地区の文化祭、初詣などを実施・参加することができました。	近隣への散歩や買い物、畑や花壇の手入れ、地域の文化祭、花祭りへ参加している他、季節の花見(桜、コスモス)、ドライブ(笠戸家族村、ミカン狩り、初詣等)、年3回の外食、家族の協力を得ての外出など、一人ひとりの希望にそって、外出ができるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	まだまだ、金銭管理が可能な方もおられるので、自分の財布からお金を出す機会を提供し社会性の維持につなげたいと思っています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年恒例になった家族や大切な人に差し出す手作り年賀状を今年も挑戦したいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用での空間(玄関・掲示版・飾り棚)は利用者の手作りで色々創意工夫をしています。自分たちの作り上げた物を生活に取り入れているため、馴染みの空間として落ち着きを感じておられます。	陽当りのいいリビングには、テレビのある畳の間や一緒に調理がしやすいように整備した台所があり、利用者の団欒の場となっている。温度や湿度、換気に配慮し、廊下の壁面には行事の写真を飾り、利用者の居室周りや廊下、リビングにはソファやイスを配置し、気の合う人同士でおしゃべりをしたり、一人でくつろいでいるなど、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内には、あちらこちらに腰をかけ集う場所があり、仲間やあるいは一人で過ごす空間として活用していただいています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に使い慣れたもの、親しんだものの持込は自由にできることを説明しています。限られた家具、ベッドの配置はご本人さんの希望や状況に合わせて使っています。	ベッド、タンスは備え付けで、入り口には利用者の好みの暖簾が掛けてあり、装飾小物、化粧品、家族の写真、趣味の作品など使い慣れたも野や好みのものを持ち込んで、居心地の良い生活空間となっている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下駄箱や自室案内の工夫により、混乱やトラブルを防ぐことができ「できること」「わかること」を活かした支援に努めています。		

2. 目標達成計画

事業所名 白鳩老人グループホーム

作成日: 平成 27 年 6 月 1 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	外15	・発生の都度、ニアミス・事故報告書に記録し、当日の職員で話し合っている。他の職員には翌日の申し送り時に報告した後、報告書を回覧し、月1回の職員会議で再度確認し、再度防止に取り組んでいる。内部研修で緊急時の対応について学習しているが、職員全員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象として応急手当や初期対応の定期的訓練の継続を図る。	・転倒、誤嚥、行方不明等を防ぐために、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、発生時の応急手当や初期対応について内部研修で身につける。	12ヶ月
2	外9	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じ勤務の一環として受講の機会を提供しているが、参加が十分とは言えない。内部研修は年間計画に基づいて実施しているが、十分とは言えない。	・外部研修への参加の工夫 ・研修の充実	・研修に参加できる人員配置、人材確保に努めできる限りの育成を図る。 ・内部研修については、内容の充実とレポート作成を実施し職員の質の向上及びサービスの質の向上を図る。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。